

# キリストさま

え・たけべ もといちろう  
ぶん・わきたあきこ




# キリストさま

文・たけべ もといちろう ぶん・わきた あきこ



文庫パワロ舎



しずかな よるで、  
とおい 山の 奥にも さえ、  
びつじは のぼろで おむって いました。  
きゆうに あたりが あかるくなって、  
びつじかいたちを びっくりにさせます。彼からは うつくしい  
さんびかと てんしの こえが きこえて きました。  
「まあ、スバルにんごの 前に いって ごらん。まよう、  
せかいの みんなのために すくいぬしが おぼえられに なった。  
うまやの かいほおけの なかに その あかちんは おむって いる。」



はかせたちが エトシムと あからんを おかんだ。と  
ミササギの 王さまに つける 翼が いました。  
王さまの なまきは へびと、とても ちがひ 王さまで、  
「そんなに えらい あかばうなら、翼をくわって 王に なってほ  
たいへんね、いまのうちを こらして しまえ」と、あかばうを  
へいたいたちを エトシムへ 移させました。けれど それより 昔、  
かみさまは 白毛アサギの ゆめの なかで おっしやったのです。  
「おきなさい、白毛アサギと 白毛アサギをつれて、すぐ おいこくへ  
にげなさい、入道師が 白毛アサギを こらそうと しています。  
白毛アサギは すぐに 白毛アサギをおこして、三人で とがりの くち  
ミササギへ にげました。  
そして、入道師王が しぬまで そこで くらしたのです。



いっしょから 来て、 二人は  
子羊の 前に きました。

いっしょは 遠くから 来て、  
いっしょに おもむき になりました。

ほかの こどもたちと おんなじに 羊の ひもを  
かけまわったり、 羊の 前から  
ことを おもむき、 羊の ひもを  
まわたり しながら……

まじい けれど あかぬ  
たのしい まいにちでした。





94年になって、イエスが、ヨルダン川に下りて来る  
ことで、ヨルダン川のほとりにヨハネという預言者のような  
人があがいておしえていました。「あなた、お前」これは  
やめよ、かみそりのくいをとるヨハネをしろ。」  
ヨハネの人がヨハネのところに来て、ここをさよめるしるしの  
せんじをうけました。  
ある日、イエスさまもそこにきて、せんじをさすけてもらいました。  
イエスが流からあがれると、せんじがはとのかたまで  
イエスの背にとまり、くいのなかからかみそりのこが  
おこえてきました。「これはわたしのたのむせんじです、  
この人のいうことを聞いてください。」



みずと いう 餅で、  
けっこんしきが ありました。  
ナリアさまも イエスさまも  
おまねを うけて、その うちへ  
おいでに なりました。  
おいしいは なんにも つづいて  
どうとう ぶどうしほが  
なくなって しまいました。  
ナリアさまは イエスさまに、  
そっと おっしゃいました。  
「ぶどうしほが なくなりそう。」



イエスさまは さわうにする 水を よんで、  
そこに ならんで いた 水の びがめを  
ゆびさしながら おっしゃいました。  
「あれに お水を いっぱいにして  
ください。」  
お水を いっぱいにした とき  
いつのまにか それは じょうとうの  
ぶどうしほに おおって いたのです。  
この ふしぎを 見て、イエスさまの 力を  
しんじ、でしに なった 人も いました。  
イエスさまが かみさまのために  
はたらかれる ときが きたのです。